

第一章◎物理の枠組み

7

I ナチュラル・フィロソフィーからフィジックスへ

物理フィジックスという言葉／サイエンスとサイエンティスト

天の法則・地の法則／数学的形式の獲得

デカルトの位置

2 対象の拡大

ロマン主義への回帰／物理の動機

物理デパートの開店と模様替え

それでも物理学者はいなかった？

3 二つの潮流

理論と現象／実用の忌避

理論か応用か／どこまでが物理か

I
科学のご都合主義

シンタックスとセマンティックス／本質を見透す

数学と物理学／理論展開の方法論

2
エレメンタリー・プロセスとシステム

物理帝国主義／メタの段階へ

概念のイメージ化

3
新たな展開のために

保守主義の源／物理学者か科学者か

帝国の再構築のために／計算機の使い方

物理の終わる日

文献案内

フィジカル・ワールドへの誘い

173

速記 豊饒書館

I
相対論の意味

電磁気学の流れか力学か

相対論のエッセンス／不変性を求めて

2
アインシュタインの偉大さ

指導原理としての不変性／物の個性が消える

特殊相対論の証拠／簡単な方がよい

3
ミクロとマクロの狭間

ミクロの世界の幕あけ／不確定性原理の雛形

確率論か決定論か／生命と量子力学

量子力学のつくったイメージ